

水道水のありがたみと、大切さ

志學館中等部 一年

白澤しらさわ

茉依ま

私が小学三年生のころ、タイからある男の子がやってきた。小学校に来て一日目、私はいつものように水道水を飲んでいて、その男の子は

「なんでこの水を飲むの。飲んだらだめだよ。」

と、日本語で返してきた。日本語、ということにもおどろいたが、それよりおどろいたことはなぜ飲んではいけないのかだ。日本では、当たり前のように水道水をたくさん飲んでい。だが、タイではちがうようだ。くわしく話を聞くと、タイの水道から出る水は日本のように全然おいしくなくて、一ぱん的には手を洗うことなどに使い、飲んではいけないそう。私は、このことを初めて知った。本当に水が思うように飲むことができないう国があるなんて。私は、このときから水道水の大切さを意識するようになった。

台風や大雨のとき、停電が起こる。電気はもちろんつかないが、水やお湯まで出なくなってしまう。トイレやお風呂など、日常生活にかかせない水やお湯が出なくなることは、すごく大きいことだ。それぞれの家で対処法はあると思うが、毎日さりげなく使っている水などのありがたみをすごく感じる。毎日出しっぱなしにしていたお湯や水が、どんなにもったいなかったことだろう。停電になったときだからこそ分かる。手洗いときはもちろん、お風呂やはみがきの時間までも水を出しっぱなしにしていたときがある。毎日お母さんに、「水を出しっぱなしにしない。」と言われてきたが、これはクセをつけないと一生直らないと思い、毎日少しずつ心がけている。これからも、この心がけをけい続していきたいと思う。

私の通う学校の水道周辺には、至るところに「節水」の文字が書かれたはり紙がある。入学当時は、「こんなに節水の文字をはって

どうするんだろう」と思っていた。だが、入学して一ヶ月あまり経った今はこの「節水」という文字の意味が分かったような気がする。この「節水」という文字は先輩方が書いていて、中には節水の意味を示した俳句も書いてあるときがある。私は、毎日学校の水道を使うときには必ず節水の意味を示したはり物を見るようにしている。それはなぜか。毎日いっしょにいる友達と手を洗うたびに、見てもらうためである。私だけでなく、まずは仲の良い友達に、次はクラスの女子みんなに、そしてクラスメイト全員に。最終的には学校中の生徒に見てもらい、広めてもらうことが目標だ。そして、それを実行してもらうことが真の目標である。私は、これを大きな目標としてこれからも色んな多くの人達に広めていきたい。それから学校の水道には、もう一つ特別なものがある。それは、必ずシャワーで水が出てくることだ。他の学校は、ふつうにシャワーでない形でできるものか、シャワ

ーに切り替わるものかだと思うが、私が通う学校ではそのようなものはなく、じゃ口をひねると必ずシャワーだけが出るようになってくる。その理由が私にはすぐ分かった。それは、やはり節水のためである。シャワーで出てくることで、ふつうに出すより使う水の量が少なくて済む。私は、この取り組みがすごくいいと思った。そしてこれを色んな人にすすめて、節水を心がけることをたくさんの人に行ってほしいと思う。

このようなことから、まず自分自身が節水を心がけ、次に身内の人に広めていき、そこから関わりのある多くの人へ節水をするよう心がけるように広めていきたいと思う。そして、何年後かに自分の周りの多くの人達が、全員節水してくれていることを夢見て、これからの毎日を過ごしていきたい。